



平成 29 年9月 15 日（金）SPHの取組について御指導・御助言をいただく運営指導委員会が行われました。



運営指導委員

上村 靖司 様	長岡技術科学大学教授
吉本 康文 様	新潟工科大学教授
斎藤 浩之 様	新潟県地中熱利用研究会技術委員長
佐々木 彰 様	新潟原動機(株)技術センター主幹技師
阿部 淑人 様	工業技術総合研究所参事
中野 裕一郎 様	新潟造船(株)工作部部長
藤澤 健一 様	新潟県教育庁高等学校教育課長

管理運営機関挨拶として高等学校教育課長 藤澤健一様よりご挨拶をいただき、運営指導委員から指導助言をいただきました。

吉本康文様

評価の部分で、指導する側の教員もスキルアップシートを書いたりすることや、電子化についてのお話や、この活動を通してこれまでの教育とどう変わったのか？違いは何か？比較して活動の方向性を出すなど助言を受けました。

斎藤浩之様

会社に行って興味を持ってもらった点が良かった。地中熱利用で、配管、ヒートポンプの指導の中で、生徒にできそうなところをやらせてみてはどうかなど助言を受けました。

佐々木彰様

科を横断する取組については実際の仕事と同じで、たとえば発電所を建設するときなどは全体をまとめたり、他の分野の人と一緒に仕事をする場面が出てくる。いろいろな専門分野との対話コミュニケーションが必要。先生主導にせず他の分野と共同してやってほしいなど助言を受けました。

阿部淑人様

3年生、2年生と違う学年の取組は？ 年次によって当該学年以外の関わり方の差を解消する手段があると良いなど助言を受けました。

中野裕一郎様

船は一つのプラントでいろいろな分野の仕事がある。省エネ住宅の研究は科を横断しての研究で達成感があると思う。間違ってもいい、失敗してもいいから、リーダーやまとめ役が、先入観をもたないで、みんなの意見でとりくむことが重要など助言を受けました。

上村靖司 様

取り組みによって、プロフェッショナル人材に触れるチャンスが多くある。

現場に行って触って感じる事が大事。

興味関心どうやって測るか？

研究に関連して、井戸掘り、熱交換器（ファンコイルユニット）を使った予備研究の提案、授業での取り組みでは、実習に力を入れてほしいなど助言を受けました。